



# 幼児教育センターだより

富山県教育委員会小中学校課

## 地区別幼児教育・小学校教育接続研修会

- 【実施日と場所】 砺波地区：11月21日（火）砺波まなび交流館  
 高岡地区：11月22日（水）伏木コミュニティセンター  
 新川地区：11月27日（月）新川文化ホール  
 富山地区：11月29日（水）富山県総合運動公園陸上競技場

【参加者】 小学校・義務教育学校教諭、幼稚園教諭、保育教諭、保育士、  
 市町村教育委員会・幼児教育施設主管課（希望者）等

### 1 講話「幼児教育と小学校教育の円滑な接続を目指して」

富山県幼児教育センター幼児教育スーパーバイザー 新夕 佳子

#### 【感想（保育者）】

- ・子どもたちの日常での発見や気づきが、小学生になっても生かされると具体的に聞いたので、もっと遊びが深まるように配慮していかなくてはと思った。
- ・幼保小の連携は大切と言われているが、実際どのようにして連携をしているのか、また、連携することで子どもたちの学びにどう関わってくるのかを具体的に知ることができた。



#### 【感想（小学校教員）】

- ・幼児教育が今の1年生の子どもたちを支えているのだと強く感じた。だからこそ、幼児教育の現状を知り、交流していくことが子どもたちの学びをつなぐ教師としてとても大切なのだと分かった。
- ・非認知能力が幼児期に一番伸びるというお話が心に残った。そして、1年生の教室環境を保育園の先生に見てもらって整備するというアイデアも素晴らしいと思った。

## 2 演習「幼児教育・小学校教育の相互理解を深めよう —どちらにも学びがある交流のために—」

### 【感想（保育者）】

- ・小学校の先生方と気軽に話すのが初めてで、小学校側の思いを知ることができ、園側の思いも伝えることができた。今回のように気軽な話合いの場が定期的にあるとよいと思った。
- ・交流の計画の話合いのエピソード等、日頃聞けないような内容までお聞きすることでできてよかった。時間が足りないと思うくらいだった。裏を返せば、まだ幼と小の壁が大きく、互いの教育や子どもを見る視点の違いについて、理解を深めていく必要があると思った。



### 【感想（小学校教員）】

- ・この研修を受ける前までは、小学校で交流するにあたって、児童が主体的であることを意識していた。しかし、今回の研修で、幼児側も主体的な活動であるかという、新たな視点に気付かされた。
- ・園の先生方が小学校教育について理解したいと思っていること、つなげて考えていることが分かり、共通理解することの大切さを感じた。

## 幼小どちらにも学びがある交流にするために、必要なことは？

（演習の記録より）



- ・子どもだけでなく先生同士も交流し、ざっくばらんに話し合える関係をつくる。
- ・事前に実態や交流の意図を共通理解する。一緒に考えて、無理な内容にしない。
- ・交流後の事後研修を行うことで、育ちの共有、次回や次年度へのつながりにする。
- ・訪問研修等の機会に互いの教育を見合っ、どのような学びをしているかを共有する。

など、たくさんの意見が出ました。